

卒業論文

公共交通機関でのベビーカー利用：
親子連れに対する他者の許容と不寛容

2011 年度入学

九州大学文学部人文学科 人間科学コース

社会学・地域福祉社会学部門

2015 年 1 月提出

要約

本論文では公共交通機関でのベビーカー利用に対する第三者の許容と不寛容について分析を行う。2014年3月26日に国土交通省で採択されたベビーカーマークは公共交通機関でベビーカーを広げたまま乗車する事の出来るスペースを示したもので、親子連れの外出を支援する目的で採択された。しかしながら現実には SNS 上で批判意見も多く投稿されていたり、ベビーカーを使用していたところ周囲の乗客から直接非難されたという声が上がっていたりと、制度がつくられてからも運用が上手く行っているかどうかは疑問を持たざるを得ない状況である。そこで、なぜベビーカーマークが批判されているのか、どのような属性の人がどのような理由でこの制度を批判しているのかを明らかにすることが本論文の目的である。

第1章では公共交通機関でのベビーカー利用に触れる前段階として子育てしづらい社会の現状、及び社会的迷惑とは何かを先行研究をもとにまとめている。

第2章ではベビーカーマーク採択以前の公共交通機関でのベビーカー利用状況、ベビーカーマークの採択に至った経緯、制度の具体的な内容、ベビーカーを利用する親子連れの置かれている状況などを官公庁データを中心としてまとめた。

第3章ではベビーカー利用に関する意識調査の準備として行った観察やインタビューについてまとめている。福岡都市圏の交通機関でベビーカーを利用している乗客の行動を観察した結果や、性別×育児経験で4通り、各2名ずつにインタビューを行った結果から仮説の設定を行なっている。

第4章では公共交通機関でのベビーカー利用に関する意識調査について述べている。質問紙を用いた留め置き調査及び郵送調査の結果から分析・仮説の検証・考察を分析項目ごとに繰り返し行う形式をとっている。仮説によって分析方法は異なるが主な従属変数「公共交通機関でのベビーカー利用に対する批判度」を晴天・非混雑時、雨天・混雑時、ベビーカーマーク掲示時の3つのケースにわけて分析を行った。

最後に全体のまとめを行い、本論文を締めくくっている。

目次

1	子育てしづらい社会の現状・社会的迷惑について	2
1.1	社会的関係の希薄さ	2
1.2	社会的迷惑について	3
2	ベビーカー及びベビーカーマークについて	5
2.1	公共交通機関でのベビーカー利用と保護者の現状	5
2.2	ベビーカーマークについて	9
3	仮説の設定と予備調査	10
3.1	予備観察	10
3.2	プレインタビュー	11
3.3	問題設定	18
3.4	仮説の設定	18
3.5	第一回プレテスト	21
3.6	第二回プレテスト	21
4	本調査	23
4.1	調査の概要	23
4.2	分析と考察	24
4.3	まとめと反省	36
4.4	今後の展望	37
	おわりに	38
	参考文献	39
	付録 調査票・単純集計	